会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会
〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854－28－9988
FAX 0854－28－9393
http://www.y-hozon.com／
E-mail:admin@y-hozon.com

平成30年度 安来節全国優勝大会

今年から会場を安来市総合文化ホール「アルテピア」に替えて、安来節保存会の真夏の祭典「安来節全国優勝大会」が例年どおり８月15日から17日までの３日間、開催されました。

今年は師範の部の唄で広島支部の福原由美さん、絃で鯉城支部の長部千春さんが二連覇。踊りでは、加茂支部の和田俊助さんが三連覇をされました。

音響も素晴らしい会場で会員の皆様も喜んでおられました。

入賞者一覧表

部門／資格	順位	唄 支部名	唄 氏名	絃 支部名	絃 氏名	鼓 支部名	鼓 氏名	踊 支部名	踊 氏名
師範	優勝	広島支部	福原由美	鯉城支部	長部千春	加茂支部	三代目福太郎	加茂支部	和田俊助
	準優勝	本部道場	松﨑祥江	本部道場	松本記代子	本部道場	一宇川耕士	関西支部	内藤良典
	第三位	加茂支部	佐藤俊月	本部道場	岩田彩代	加茂支部	妹尾なおみ	本部道場	野島優子
	奨励賞	神門支部	永瀬文雄	関西支部	高木妙	本部道場	小池孝子		
		松山支部	河本敬子	加茂支部	三代目福太郎	出雲支部	古山久美江		
		本部道場	安達美由紀	東伯支部	小谷幸洋	境港東支部	岩田久美子		
		東京支部	松本文子	関西支部	富田朋徳	益田支部	山﨑眞由美		
		松江支部	佐藤美佐子	斐川支部	西郁郎	本部道場	山岡はるの		
熟年	優勝	斐川支部	遠藤勝美						
	準優勝	広島支部	田丸徳治						
	第三位	本部道場	弓浜マキ子						
准師範	優勝	東海支部	洞谷早紀	本部道場	増田日向子	本部道場	石田采	神門支部	高橋大河
	準優勝	東海支部	村松さつき	関西支部	樫元千成	本部道場	田中美幸	境港東支部	砂川潔
	第三位	広島支部	二井内由美	鯉城支部	可部実千代	本部道場	川上博文	関東支部	鈴木美和
	奨励賞	本部道場	山本朋子	東海支部	村松典子	飯南支部	神崎京子		
		本部道場	井戸敬子	本部道場	井戸敬子	東京支部	一石裕子		
		関西支部	岩元和子	関西支部	高木ことり	関西支部	大島睦広		
三段	優勝	東海支部	北原奈央	東伯支部	小泉清香	飯南支部	神崎涼菜	東海支部	杉下里美
	準優勝	米子支部	前田むつ子	東海支部	村松さつき	加茂支部	原修	山口支部	大谷英顕
	第三位	本部道場	大和恵美子	本部道場	吉村優那	伊予道後支部	高須賀勉	伊予道後支部	和田育子
	奨励賞	広島玉実支部	山﨑たけ子	津山支部	竹内公三郎	関西支部	吉田麻里		
		関西支部	櫻井一二三	江田島能美支部	松本紗佳	江田島能美支部	牟田一佳		
二段	優勝	尾高支部	山内結子	本部道場	門脇碧衣	本部道場	高橋定雄	東北支部	佐藤征司
	準優勝	本部道場	石井静恵	本部道場	高橋佳祐	境港東支部	川本清	津山支部	福原寛登
	第三位	東伯支部	高尾裕子	鹿足支部	森山恵	本部道場	国重菜津美	江田島能美支部	猪國昭
	奨励賞	広島支部	柳楽朝美	松江支部	板持スミエ	大江戸支部	一宇川普		
		東伯支部	小泉清香	本部道場	太田愛	伊予道後支部	白石和徳		
初段	優勝	平田支部	常松守男	松江支部	福頼孝之	本部道場	中山紗華	大江戸支部	川﨑愛久
	準優勝	本部道場	畑早苗	湖陵支部	大國喬雄	本部道場	吉村優那	本部道場	福田美智子
	第三位	本部道場	野口ひかり	関西支部	金森俊雄	本部道場	陶山紗代	飯南支部	宇山英里
	奨励賞	津山中央支部	柿本彩花	東伯支部	福本唯央那	東京支部	鈴木優子		
		東京支部	木寺幸子	本部道場	太田めい	広島東支部	中村君代		
一級	優勝	本部道場	福田美智子	尾高支部	山内結子	本部道場	増田日向子	湖陵支部	名原祐紀
	準優勝	関西支部	牛田侑希	東伯支部	福井若菜	湖陵支部	大國泰雅	本部道場	坂田和男
	第三位	神門支部	田中笑子	本部道場	畑早苗	本部道場	中井博子	関西支部	提坂陽子
	奨励賞	鹿足支部	森山恵	飯南支部	宇山英里	岡山支部	藤原淑子		
		松江支部	堀江琴代	神門支部	糸賀奈穂美	本部道場	大和恵美子		
二級	優勝	湖陵支部	三原史子	平田支部	勝部梓緒里	加茂支部	加納隆行	米子支部	八田保乃香
	準優勝	本部道場	大和飛鳥	本部道場	石原麻由	仁多支部	深田英治	大江戸支部	澤田万美
	第三位	湖陵支部	大國かおり	加茂支部	加納隆行	東京支部	浅田節子	大江戸支部	浦川香代子
	奨励賞	東海支部	遠田梨々香	本部道場	吉田昇平	津山支部	福原寛登		
		関西支部	若林悦子	東京支部	澁澤由子	江田島能美支部	川上あけみ		
三少年段	優勝	本部道場	増田佐和子	本部道場	石田侑			神門支部	今岡竜希
	準優勝	備北支部	村岡美南	本部道場	増田佐和子			神門支部	神田悠希
	第三位	広島南支部	梶木七の葉	広島南支部	梶木七の葉			広島南支部	梶木七の葉
二少年段	優勝	本部道場	石原奏司郎	飯南支部	神崎衣緒	広島南支部	梶木七の葉	神門支部	今岡剛人
	準優勝	津山支部	福原千穂			広島南支部	梶木凛人	和歌山支部	宮本陽一朗
	第三位							広島南支部	梶木凛人
初少年段	優勝	関西支部	井元栄彰	智頭支部	祐延里菜	本部道場	石田侑	仁多支部	藤原悠太
	準優勝	宍道支部	別所貴哉	広島玉実支部	平本雄也	本部道場	土江逸太	関西支部	井元栄彰
	第三位	備北支部	村岡那紀	備北支部	佐々木汐莉	広島南支部	広中しずく	神門支部	神田昂陽
一少年級	優勝	本部道場	片山奈々	神門支部	吉川莉央	本部道場	増田佐和子	神門支部	安食美咲
	準優勝	湖陵支部	栂野可帆	湖陵支部	栂野可帆	広島玉実支部	平本雄也	神門支部	安食和哉
	第三位	湖陵支部	下井琥優					和歌山支部	宮本拓音
二少年級	優勝	神門支部	高木紗英	本部道場	澤田氣	神門支部	吉川莉央	本部道場	松﨑光星
	準優勝	本部道場	澤田氣	本部道場	石原奏司郎	神門支部	今岡竜希	本部道場	澤田氣
	第三位	東海支部	中村舞	湖陵支部	大國吏槻	備北支部	岡田真郷	神門支部	日高流輝
三少年級	優勝	鯉城支部	光岡春花	湖陵支部	三浦麻理乃	湖陵支部	下井裕太	本部道場	山口華凛
	準優勝	智頭支部	坂本紗生	神門支部	今岡竜希	津山支部	福原千穂	和歌山支部	宮本結華
	第三位	神門支部	安食和哉	備北支部	池田琹那	神戸支部	川上音愛	神門支部	高橋奏汰

銭太鼓の部

優勝　智頭チーム
藤井沙紀
福永瞳
中橋ななみ
辻怜菜
桑田さやか
祐延里菜
山田好純
坂本真希子

準優勝　本部道場チーム
田中美幸
安達美由紀
松本記代子
国重香菜子
山岡はるの
石田采
二岡葵
増田日向子
吉村優那

第三位　関西Ａチーム
樫元千成
高木ことり
林実央
島野文子
永秀夫

団体の部

優勝　本部道場
唄　安達美由紀
　　松﨑祥江
絃　岩田彩代
　　松本記代子
鼓　一宇川耕士

準優勝　加茂支部
唄　佐藤俊月
　　陶山めぐみ
絃　三代目福太郎
　　和田俊助
鼓　妹尾なおみ

第三位　松江支部
唄　堀江さつき
　　佐藤美佐子
絃　安達哲彦
　　高木賢徳
鼓　佐藤武三郎

奨励賞　益田支部
唄　山﨑眞由美
　　中村節子
絃　出雲美枝乃丞
　　佐々井貴子
鼓　山崎勇

奨励賞　神門支部
唄　永瀬文雄
　　野坂恵美子
絃　矢田部三夫
　　阿柳忠男
鼓　柳楽朝美

ご協賛披露

安来市長賞
BSS山陰放送賞
審査員特別賞
安来市観光協会伯太支部
安来特産品組合
スポーツショップまつもと
安来節屋　師範の部　各優勝者
五代目富田徳之助賞　師範の部　絃優勝者
安来市観光協会広瀬支部長賞　熟年の部　唄優勝者
安来市観光協会長賞　准師範の部　各優勝者
清水・さぎの湯
観光地連絡会賞　三段の部　各優勝者
安来商工会議所会頭賞　二段の部　各優勝者
JAしまね
やすぎ地区本部長賞　初段の部　各優勝者
家元四代目渡部お糸賞　少年三段の部　各優勝者
安来市教育長賞　少年二段の部　各優勝者
足立美術館賞　少年初段の部　唄優勝者
安来節演芸館賞　少年初段の部　絃優勝者
安来市観光協会長賞　少年初段の部　鼓優勝者
出雲文化企画賞　少年初段の部　踊優勝者
安来特産品組合賞　少年一級の部　各優勝者
安来市長賞
金鳳賞　団体の部　優勝チーム
安来商工会議所会頭賞　団体の部　準優勝チーム
JAしまね
やすぎ地区本部長賞　団体の部　第三位チーム
西村堂賞
守谷宗光賞
エッグ賞　団体の部　奨励賞チーム
銭太鼓の部　優勝チーム
（順不同・敬称略）

師範の部 優勝者

唄

福原由美
（広島支部）

今年は安来市総合文化ホール　アルテピアでの初開催ということで、このような立派な会場で演奏できることに喜びを感じています。

ご尽力された大会関係者の皆様、安来節保存会の皆様に深謝いたします。

また、ご指導いただく先生方、無資格の頃から育てていただいた村上慶子先生、広島支部の皆さん、絃の長部千春さん、鼓の長部啓二さんに感謝いたします。もちろん毎回応援してくれる家族にもありがとうと言いたいです。

今年も優勝を目指しておりましたが、昨年よりも上達していないと連続優勝は難しいと思い、現状維持ではなく挑戦の気持ちで一年間お稽古して参りました。その結果、二年連続優勝をいただきました。師範の部、通算三度目の優勝ということで、唄の大会は卒業になります。しかし、まだまだ歴代の諸先輩方には及びません。もっとお稽古して少しでも近づけるように精進いたします。

最後に、今年十月十三日、浅草公会堂にて、「民謡民舞今フェス2018」に絃の長部さん、鼓の和田さんとともに安来節代表として参加させていただくことになりました。代表に恥じない演奏を心掛けます。ありがとうございます。

絃

長部千春
（鯉城支部）

二年連続優勝、そして唄の部の福原由美さんと同時優勝出来た事、本当に嬉しく思います。福原さんとは、何度もお稽古を重ねてきました。「千春ちゃんの三味線は唄いやすい！」と、私にとって一番嬉しい褒め言葉を頂き、私も福原さんの唄は、とても気持ち良く、安心して弾く事が出来ました。しかし、福原さんの唄との出場は今年で最後になりましたので、とても寂しいですが、今後も唄いやすい伴奏を心掛けて頑張ります。

また、五歳の娘も少年三級の部の唄で優勝を頂きまして、最高な日となりました。今年は、自分の事よりも娘の出番の心配ばかりでしたが、堂々と唄う姿を見て安心どころか、逆に見習う事がたくさんありました。娘も優勝した事をとても喜んでいましたが、「ママはたくさんプレゼントもらっとるのに、なんではるちゃんは旗と賞状しかないん？」と質問をしてきた時には言葉がつまりました。

念願の三世代出場が叶い、これからも安来節を代々継承していく事、そして今後もさらに上を目指して稽古に励んでいき、精進して参りたいと思います。

御指導して頂いた先生方、応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

鼓

三代目 福太郎
（加茂支部）

平成三十年度、安来節全国優勝大会を終えて、まずは一息、ホッとしたと言うのが、今の率直な感想です。

今年から、安来市総合文化ホール　アルテピアへと会場が替わり、更には今年一月から長年参加させていただいた陶山朋之から、三代目福太郎と名を改め、新会場での初代チャンピオンを意識しなかったと言えば、嘘になります。

そんな心境で迎えた大会最終日、師範・鼓の部で優勝をさせていただき、大変光栄に思っております。しかし、未だ実感もなく、ただただもっと上を目指して勉強し、圧倒的パフォーマンスが出来るようになりたいと、強く感じております。

私がここまで夢中に安来節を探究し、探求するきっかけをくれた父、そしていつも気にかけてくださる出雲俊之助先生をはじめ、諸先生方、最高の仲間達、理解ある家族に最大級の感謝をしております。本当にありがとうございました。

まだまだ、人間力、技術共に未熟ではありますが、安来節の伝統を守り、新しい世代への架け橋となれるよう努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、毎年三日間今大会を支えてくださっている、事務局の皆様、本部道場の皆様、本当にお世話になりました。

踊

和田俊助
（加茂支部）

今年も、前年に引き続き踊りで挑戦させて頂き、優勝をさせて頂きました。本当にありがとうございました。

今回、この様な栄誉ある賞を頂きましたのも師匠である出雲俊之助先生をはじめ、大東教室の三代目出雲愛之助先生、そして支部の皆様、諸先輩方には大変お世話になりましたことを心より深く感謝申し上げます。

安来節との出合いを通じて、沢山の人に係わり、厳しいことも楽しいこともあり、色々と他では経験できないことを勉強させて頂きました。

今後は、この喜びを励みとして、この賞に恥じないよう日々精進して参りたいと思っております。そして、さらなる向上心を持って、先輩の方々を目標とし、また自分も見本となれる様、努力していきたいと思います。

どうか今後とも一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い致します。

この度は、誠にありがとうございました。

団体の部 優勝チーム

本部道場の皆さん

代表　安達美由紀

団体優勝のアナウンスが流れた瞬間、ヨシッ!!強くガッツポーズをして喜び合いました。仲間と共に勝ち取った一番は、個人戦とは違う、なんとも言えない喜びがあります。

本部道場としての誇りを持って、目指すは二連覇！「一番になるぞ」という、その気迫だけはどのチームよりも負けてなかったと思います。そして忙しい中、本部の先生方には細部に渡って何度もご指導頂きました。練習を重ねるにつれて、少しずつ良いカタチになっていくのを実感し、自信を持って本番を迎える事が出来ました。

本番は、やはりみんな緊張をしていましたが本部の方々の大声援が、本当に私たちを後押ししてくれて、笑顔で楽しく出来た事が一番の喜びでした。

私ごとですが、家に帰って一番に亡き祖父のもとへ賞状を持って行き報告をしました。「よくやった、お疲れさま！」と喜びの声が聞こえてくるようでした。

最後に、ご指導下さった先生方、応援してくださったみなさんと一緒に勝ち取った一番だと思っています。本当にありがとうございました。

銭太鼓の部 優勝チーム

智頭チームの皆さん

代表　藤井　沙紀

「チームの団結力を感じた優勝大会」

今年度からアルテピアでの大会開催ということで、予選通過を果たし、是非新しい舞台で銭太鼓を打ってみたいと楽しみにしていました。

無事に予選は通過したものの、予選通過後、全員揃っての練習があまり出来ない中で、優勝大会に向けてひとつひとつの動きやタイミングを見直し、全体の完成度を少しずつ上げていきました。以前の優勝メンバーとの入れ替えで中学生のメンバーが入ってくれましたが、必死に追いついてきてくれる姿を見て、優勝大会二連覇があまり遠くないものになってきたと実感しました。

私たちのチームは今回の優勝大会で、昨年に続き、優勝できたことを本当に嬉しく、光栄に思います。最近では、ありがたいことに、他支部の方にも銭太鼓を褒めていただけることが多くなり、その評価とプレッシャーが優勝への意欲と自信に繋がったのだと感じます。しかしここで気を抜くことなく、さらに腕を磨き、来年こそは、一昨年達成することのできなかった三連覇を実現させたいと思っています。皆様の御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い致します。

少年三段の部 優勝者

唄

増田佐和子
（本部道場）

平成最後、少年の部最後の年に、昨年に続き、唄で二度目の優勝をさせていただいたことをとてもうれしく思います。

昨年、唄と絃で優勝できたこともあり、今年は大きなプレッシャーを感じての挑戦でした。しかし、中学三年生ということもあり、部活動中心の生活をしていたため、県総体が終るまでは全く練習ができませんでした。不安でいっぱいの中、周りの方々の励ましのおかげで、気持ちを切り替えて頑張らなくてはという強い気持ちになりました。大会前の忙しい時に、時間を見つけて指導してくださった先生方、仕事の合間をぬって送迎をしてくれた両親、また、少しでも練習できるようにと、自主練に付き合ってくれた姉に、本当に感謝しています。

来年からは、一般の部で大会に挑戦します。今後は、今以上に感謝の気持ちを忘れず、練習を積み重ね、大人の方々に負けないくらいのパフォーマンスをして、優勝を目指したいと思っています。

最後になりましたが、指導していただいた先生方、応援してくださった本部道場の皆さま、本当にありがとうございました。

絃

石田　侑
（本部道場）

今回、少年三段の部の絃で優勝する事ができてとても嬉しいです。今までは優勝する事ができず、去年初めて優勝する事ができたので、今年は二連覇する事を目標にして大会に出場しました。去年に比べて出場者の人数は少なくても、一人一人がとても上手く、入賞できるか不安でしたが、優勝でき、二連覇する事ができ、安心しました。そして、少年最後の年で優勝できたことも嬉しい事でした。

二連覇する事ができたのは、いつも優しく時に厳しく指導して下さった先生や教室で楽しくお稽古ができたおかげです。本当にありがとうございました。

来年からは一般になるので、今よりもっと大変になるけど、頑張ります。今回は本当にありがとうございました。

踊

今岡竜希
（神門支部）

この度は、優勝という偉大な賞を頂き、ありがとうございました。

私は、今まで踊りで二度、三位を取らせて頂きましたが、悔しさも残っていました。もちろん嬉しくはありましたが、三段の部で優勝をした。しかし、今回、二頂く事ができ、とても嬉しく思っています。これらは、指導してくださった先生方、送迎をしてくれた両親、そして、共に頑張ってきた仲間のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

私は現在、神門支部窪田教室で、楽しく、充実感のある時間を過ごさせて頂いています。この素晴らしい環境で、これからも練習に励んでいきたいと思います。また、踊りと並行して、鼓と三味線の練習も頑張っていきたいと考えています。これからも迷惑をかけると思いますが、よろしくお願い致します。

この度は、本当にありがとうございました。

訃報

絃名人、三代目安達順吉さん（八十八歳）が平成三十年六月二十七日逝去されました。

昭和二十四年に安来節保存会に入会され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

「平成30年７月豪雨災害」の義援金を寄付しました

このたびの平成30年７月豪雨災害により被災された皆様方に、心よりお見舞い申しあげます。

当会は、９月３日、平成30年７月豪雨災害で被災された皆様の支援および被災地の復旧・復興に役立てていただくため、安来市社会福祉協議会を通じて、会員の皆様から募った義援金547,830円を日本赤十字社に寄付させていただきました。

事務局からのお知らせ

●会報「安来節」に原稿をお寄せください。

４月と12月に発刊する会報「安来節」にご寄稿をお待ちしております。安来節との出合いや思い、支部の活動や目標、保存会の今後などなど題は自由です。

いずれも1,000字程度で顔写真（１年以内の物で使用後は返却します）も併せて送ってください。